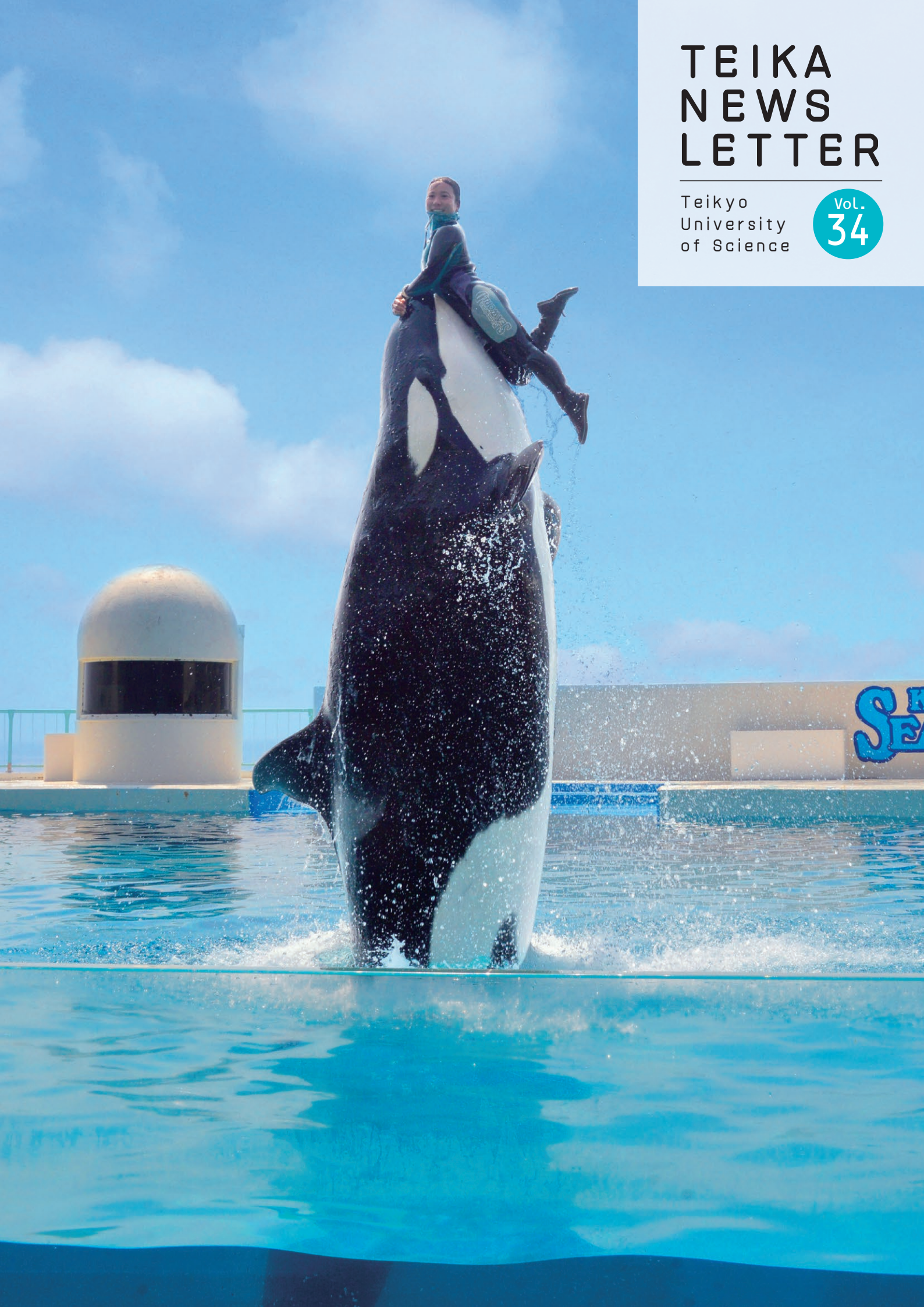
TEIKA NEWS LETTER

Teikyo University of Science

Vol. 34



SPECIAL TALK 対談

テーマ

コロナ禍での授業とこれからの学びのあり方

副学長と5人の学生で対談を行い、コロナ禍で抱えていた想いや現在の状況、将来の展望について話を聞きました。

やりたいのにできない。そのもどかしさを乗り越えて

副学長:去年は、大学で勉強するうえでもどかしい思いもしたと思います。それぞれ具体的なエピソードがあれば聞かせてください。

佐相:僕の学科では、教育実習のために必要な「介護等体験」というのがあります。福祉事務所などに行って1週間福祉の勉強をするのですが、コロナ禍でそれが実施できなかったのが残念でした。

学校教育学科
中高理科コース
佐相 翔太さん

渡邉:僕は保健体育コースなので、実技系の授業は最初の10回講義を受けて、残りの5回は夏休み中に実技をやりました。また、剣道部に所属しているのですが、部活動は今もほとんど活動できていません。

新井:受講している初等教育の授業で、自宅で実験することになったときのことです。家にはもちろん実験道具がないので、作るところから自分で準備しなければなりませんでした。材料を買ってきて、道具を作って……とても大変でしたね。

井口:私は英語の発音指導の授業をZoomで受講したのですが、オンラインだと口の動きも音の聞こえ方も正確に伝わりづらくて。当時はパソコンを持っておらず、スマートフォンで受講していたので、資料の見え方などが違ったのも苦労しました。途中からは、大学がパソコンを貸し出してくれたのでありがたかったです。

副学長
永沼 充先生

対面とオンライン、それぞれのメリットを活かして

副学長:授業する側は、学生がどんな環境で授業を受けているのか想像しきれない部分もあると思います。教員自身が、いかに自分の伝えたいことが伝わるような授業ができるか勉強しないといけませんよね。今の授業はどんな形態で行われていますか?

坂本:私が所属する幼児保育学科では、今年度の初めは実習指導を対面で、それ以外の授業をオンラインで行っていました。今はすべて対面授業になっています。

渡邉:学校教育学科はずっと、すべての授業が対面でした。

学校教育学科
国際英語コース
井口 愛香梨さん

副学長:今は対面授業を基本としていますが、困難な学生は申請すればオンラインでも受講できるように対応しています。もちろん、講義中の感染予防に関してはこれからも対策を続けていきます。
学生に聞くと意見が割れることが多いのですが、みなさんは対面授業とオンライン授業、どちらがいいのでしょうか?

佐相:科目によると思います。実験や実際に人前で行う経験を積むことができる模擬授業など、実践的な科目は対面がいいです。逆に人数の多い必修科目などは、オンラインでいいと思います。資料を提示して画面に映るホワイトボードに要点を書いてくれたので、特に不便は感じませんでした。

副学長:どちらにもいいところがあるから、選択できる状況がいいのかもしれませんね。

学校教育学科
小学校コース
新井 菜々実さん

いい学生がいい後輩を呼ぶ。脈々と受け継がれる「TEIKAの文化」

副学長:今、本学では、学生が積極的にキャンパスに来るようになっていると思います。皆さんが大学に来るようになって、できるようになった活動などがあれば紹介してください。

坂本:昨年から取り組んでいるオープンキャンパスの活動です。ずっとオンラインでやっていたのですが、先日初めて対面で開催することができました。予約だけで1000人近くの参加者の方が集まってくださり、大学の楽しさやいいところを直接伝えられたのがうれしかったです。

新井:私もオープンキャンパスの活動をしています。コースの説明をさせていただいた時に、高校生や保護者の方から「楽しそう」「ここで学ばせてあげたい」などと言っていただけて。それは対面だったからこそ伝えられたのかなと思いました。

副学長:オープンキャンパスに来てくださった方にアンケートをとると、「学生さんの感じがよかった」「笑顔で接してくれてうれしかった」という声が多いです。皆さんの姿を見た高校生が大学生になって、また同じように次の代に繋がっていくのもTEIKAの魅力です。そうやって学生が大学の文化を作っているのだと思います。今はコロナ禍ですが、前向きな考えで、今できる活動をこれからもやっていただきたいです。

何になってもいい。今の考えを突き詰めて、将来の夢を見つけてほしい

副学長:最後に、皆さんの将来やりたいことや、今努力していることがあれば教えてください。

井口:私は教師を目指しています。コロナ禍で模擬授業がオンラインになってしまい、実践ができないまま教育実習に行くのが不安なので、小学校に隣接している学童でアルバイトを始めました。大学では特別支援教育という授業が始まったので、どんな状況の児童にも寄り添えるような教員になれるように勉強しています。

幼児保育学科
坂本 枝梨さん

渡邉:僕はまだ教員と公務員、どちらになるか決めていません。どちらを選択してもいいように、しっかり勉強しようと思っているところです。

副学長:ありがとうございます。本学の学生の強みは、人と人との対話がきちんとできるところだと思っています。人との関わりの中で、自分がどのように舵を切っていくのか、どう貢献していくのか。結局は人を大事にすることだと思うんです。それは、将来何になるにしても大切なこと。各々が今考えていることを突き詰めていき、どんな道に進むのか、この大学で見つけてもらいたいです。

学校教育学科
中高保健体育コース
渡邉 貴大さん

キャリア支援センター紹介

親身な面談や充実した情報提供など、多角的なサポートによって学生の夢を手厚く応援。
在学中はもちろん卒業後まで、一人ひとりに寄り添うキャリア支援を行っています。

1 ／ 就職実績（2021年3月卒実績）

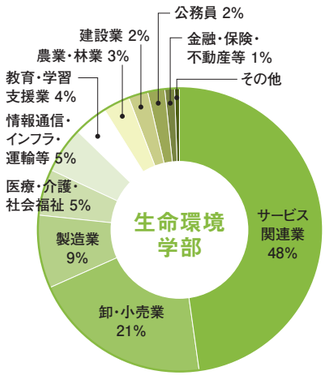
生命環境学部は例年接客・販売系を含む「サービス関連業」の仕事に多くの学生が就職します。2021年3月卒の学生はコロナ禍の影響で接客や販売系の求人が一時的に減少したため、就職活動に苦戦しました。しかし、卒業研究発表後に就職活動が活発化し、就職を希望する学生のほとんどが進路を決定しています。

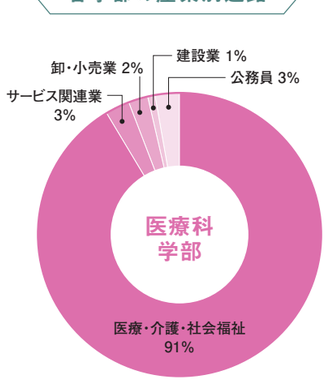
医療科学部は、国家試験合格者のほぼ全員、病院等医療施設への就職が決定しています。全体の9割以上の学生が医療系の仕事を選択しています。

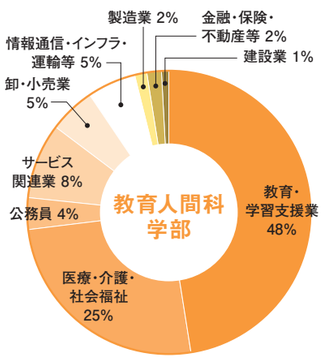
教育人間科学部は、保育士・幼稚園教諭志望者はほぼ全員が保育園幼稚園等に就職が決定しています。教員に関しては学部・大学院から70名が教員として採用されています。全体の約8割の学生が教員（幼稚園含む）、保育士等の進路を選択しています。

詳しくは
こちらから

各学部の産業別進路







2 ／ 就職率

2021年3月学部卒の就職率は94.0%です。この数値はリーマンショック以来（2010年3月卒学生）の非常に厳しい水準になりました。原因は新型コロナウイルス感染症の拡大によって採用活動中断となった就職活動の遅れです。

卒業後の就職報告が多かったこともあり、卒業論文を提出した後に就職活動をした学生や進路を検討した学生が多かったものと考えられます。

3 ／ コロナ禍での対策

2020年4月に発出された緊急事態宣言によって、4月中旬～6月中旬まで就職活動は完全に停止。その後オンライン説明会・面接に切り替わり、全国の就活生がPCとWi-Fiを準備することになりました。Wi-Fiの接続環境が悪い地域もあり、悲喜こもごものオンライン就活となりました。本学のキャリア支援センターもZoomによるオンライン面談に3月末から切り替え、学生の進路相談に対応しました。

4 ／ 本学の取り組み

キャリア支援センターは、学生の「進路」を学生と一緒に考える場所です。就職に関する相談はオンラインと対面を併用して対応しています。また、卒業⇒就職というキャリアの価値観は学生の多様化とともに変化しています。学生が卒業後どのような進路を選択するのか（出来るのか）を学生と一緒に考え、学生にとって後悔のない進路を選択できるように心がけています。

5 ／ 本学学生の特徴

よく企業様からいただくコメントとして「真面目」、「素直」、「オンラインマナーが良い」という評価をいただきます。一方で「消極的」、「反応が遅い」、「メールの返信が遅い」等のご指摘をいただきます。

学生がこれから社会に巣立つに際し、良いコメントを沢山いただけるよう、ガイダンスや面談を通じて指導を行いたいと考えています。

大学院

科学技術・医療の教育研究を通じて、
広く社会人と人類の発展に貢献することをめざす

「より高度に学び、研究を深めたい」と考える学生のために、大学院理工学研究科および医療科学研究科を設置。修士課程（2年）で修士の学位を、博士課程（3年）で博士の学位の取得がめざせます。先端科学技術分野、医療科学分野の教育研究を通じて、広く社会と人類の発展への貢献をめざします。

詳しくは
こちらから

医療科学研究科
看護学専攻 修士1年
内田 麻友
さん

Student

大学生時代に看護研究の楽しさを感じ、病院での臨床経験を積んだ後、看護学をより深く学びたいと思い大学院に進学しました。現在本学が運営する保育園で看護師をしており、仕事との両立は大変な時もありますが、職場の理解もあるおかげで、それ以上のやりがいを感じています。勉強するモチベーションになっているのは、職場の子どもたちの笑顔。職場も大学院も、やりがいを感じながら毎日楽しく過ごしています。今後も働きながら、看護師として成長できるよう日々勉学に励みたいです。
（2018年 医療科学部看護学科 卒業）

担当教員
小児看護学
伊藤 久美
教授

Professor

2020年4月、医療科学研究科看護学専攻修士課程が誕生しました。修士課程では、大学での学びやこれまでの臨床経験をもとに、さらにより深く、看護を学ぶことができます。小児看護領域においては、疾病の有無だけでなく、子どもやその家族が様々な環境の中で生活できるよう、倫理や理論、研究方法など学びを深めます。そして、子どもやその家族をテーマとした研究に取り組み、実際の看護に活かせることを目指しています。

今年度大学院に入学された内田さんは、小児看護に興味を持ち、看護師として現場に活かしていけるようコツコツと取り組んでいます。仕事と大学院の両立は大変ですが、自身の選択を信じ、時間の有効活用と体調管理を行いながら学びを深めていけるよう支援していきたいです。そして、知識だけでなく、常に子どもや家族の声に耳を傾けケアができる専門性の高い看護師になってほしいと思っています。

医療科学研究科

修士課程 2年	■ 総合リハビリテーション学専攻 ■ 柔道整復学健康ケア専攻 ■ 看護学専攻
博士課程 3年	■ 総合リハビリテーション学専攻

理工学研究科

修士課程 2年	■ アニマルサイエンス専攻 ■ 環境マテリアル専攻 ■ バイオサイエンス専攻
博士課程 3年	■ 先端科学技術専攻 ・アニマルサイエンス領域 ・環境マテリアル領域 ・バイオサイエンス領域

取得可能な教員免許状 ※先端科学技術専攻・医療科学研究科は除く

- 中学校教諭専修免許状（理科）
- 高等学校教諭専修免許状（理科）

コロナ対策授業

―本学の取り組み―

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業ができなくなるという制約がある中で実施している、各学科の特色を活かしたコロナ対策授業の取り組みをご報告いたします。

生命環境学部 Faculty of Life & Environmental Sciences

アニマルサイエンス学科

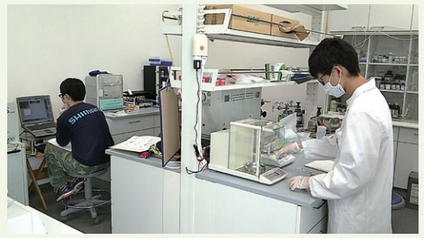
Department of Animal Sciences　喜久村 徳淑 特任助手

馬介在活動センターでは、馬4頭とヤギ1頭の飼育を主に2、3年生が中心となって行なっており、対面授業が始まってまもなく新入生も活動に加わりました。日々の活動における感染対策としてはマスクの着用、検温、手指や物品の消毒といった基本的なものに加えて、活動に参加する人数の制限、待機部屋の人数制限を設けています。活動はそもそも屋外が主ですが、お互いの距離がなるべく近くならないよう、作業の分担と時間配分を工夫し行なっています。授業や実習の際は人数も増えるため、スペースを広く活用することで人の密度を分散しています。今後も感染状況に柔軟に対応しながら、可能な活動を学生と実施していきたいと考えています。

自然環境学科

Department of Natural & Environmental Science　山際 清史 講師

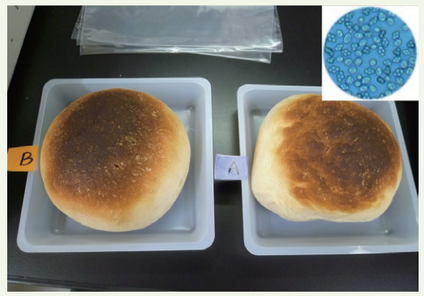
化学系の学生実験や卒業研究は室内で実施されるため、感染予防の観点から学生の密を避けた方式や日程調整が必要です。基礎環境科学実験では、通常時は最大50人（4人/実験台）の規模で実施しますが、今年度は学年を2組に分け、技術習得のうえで特に重要なテーマを対面（2人/実験台）で実験する組と、実験動画を視聴し課題に取り組む非対面型の組で、週ごと交互に実施する方式をとりました。研究室での卒業研究については、日程管理アプリを利用して在室人数を調整するとともに、実験（合成）/評価（観察）/データ整理、のように在室の目的を明確に分けることで、密を避けながらも効率的な研究活動を行う工夫をしています。



生命科学科

Department of Life & Health Sciences　上野 良平 准教授

コロナ禍の中、昨年度はZoomや動画配信による授業が中心でしたが、対面方式での実施が不可欠な実習もあり、高品質な学修を行うためには多様な手法を取り入る必要がありました。すなわち、私達は新しいコミュニケーション方法の習得を通して、多様な教育方法を提案できるようになりました。現在、私の研究室セミナーは、スペースの事情により、オンラインで実施中です。他方、地域の高校生を招いての研究活動では、限られた人数で行うため、十分なソーシャルディスタンスを確保できます。このような活動は対面で行うなど、臨機応変に対応しています。私の研究室の4年生は、富士山の酵母を用いる卒業研究の一部として、高校生の対面指導も始めました。



医療科学部 Faculty of Medical Sciences

理学療法学科

Department of Physical Therapy　青柳 達也 助教

理学療法スキルの習得や学修効率を向上させるため、ICT教育を積極的に取り入れ学修環境の整備を行っています。まず一つ目に、三密回避のため、実技を伴う授業は複数教室に分かれて実施しています。この際はZoomを利用して講義内容の共有だけでなく、複数教員からのフィードバックや学生間の意見交換など双方向性を保つように工夫しています。二つ目に、複数台のネットワークカメラを用いて、多方向から撮影した理学療法スキルの映像をひとつの大画面スクリーンに投影することで、従来の見学環境では一方向からの観察に留まっていたものが多方向から観察できるようになりました。今後もICT環境を整え、効率的な学修に繋げるよう取り組んで参ります。

作業療法学科

Department of Occupational Therapy　澤田 有希 講師

作業療法学科では、1年次から解剖生理学や運動学の知識の定着を図り、国家試験につなげることを目的としたリハビリテーション特論という科目があります。コロナ禍では、以前のように実際の模型を授業時間内・外で自由に用いて学修を進めることが難しい状況にあります。そこで、リハビリテーション特論では、脳や骨、筋のペーパークラフト、神経の伝導路の模型などを個々に作製しています。専門用語を調べ、グループで自分の模型を使って説明しながら学修し、知識の定着を図っています。作った模型は、授業時間外に自宅などで復習するときにも視覚的に理解できるよう工夫をしています。

柔道整復学科

Department of Judo Therapy　佐野 秀明 准教授

柔道整復学科では、三密を避ける行動は日々の生活から取り組んでおります。コロナ禍ですが、柔道整復術としての実技系が主となり、実践同様の科目に学生が興味を持ち、さらには附属接骨院での患者さんを目の前にしての臨床実習など、教員一同最善の配慮を尽くして行っています。臨床実習人員の削減、徹底したコロナ対策の容姿、集中力を極めるため個々に適した指導、助言制度によるメンタルケアへの対応、4年生に対しては国家試験合格に向けた集中出来る環境を作り、普段とは掛け離れた学生への距離『間』を特に大切にしつつ、医療人学生としての意識を継続させて指導しております。

医療科学部 Faculty of Medical Sciences

東京理学療法学科
Department of Tokyo Physical Therapy

潮見 泰藏教授

本年度当初は対面授業を行っていましたが、学生の中に感染者や濃厚接触者が出るようになったため、対面授業とオンライン授業を並行して行うことになりました。授業の録画が行われているため、学生はオンデマンドによる視聴も可能であり、同一内容の講義を複数回受けることもできます。また、理解度確認のため、毎回、講義終了後にその日の講義内容の課題を与え、翌週までにCampus square上に提出することを行いました。実習では、二人一組で行うことで、できるだけ「三密」状態を避けるとともに、肺活量や呼気ガスの測定のようなマウスピースやフェイスマスクを使用する感染リスクの高い課題を取り止めて、リスクの低い課題を選択して実施しました。

東京柔道整復学科
Department of Tokyo Judo Therapy

濱田 淳講師

東京柔道整復学科では本年度、新型コロナウィルス感染拡大防止対策を徹底しながら実技実習科目の対面授業を再開しました。通常時は90名前後での実技実習授業ですが、密状態を避けるため、これを30名前後の3グループに割り振り、「実技実習」、「座学授業（またはZoomでの遠隔授業）」、「オンデマンドによる課題学習」の3形態で授業を展開しております。マスクの着用を義務付け、実技実習室への入室の際には手指の消毒の徹底を図り、実技実習室内の換気にも十分に気を付け、実習に使用するベッドも隣り合わないように配置して実技実習を行っております。学生たちは対面で実習ができる喜びを感じながら技術の向上に取り組んでおります。

看護学科
Department of Nursing

福井 郁子講師
鹿島 嘉佐音助教

コロナ禍にあっても学生の学修機会を確保するために、換気や消毒等をはじめとする感染対策の徹底とともに、必要に応じて遠隔授業も取り入れつつ、ソーシャル・ディスタンスを保ちながら、原則、対面による授業を行っています。講義では、状況に応じてZoomによる同時配信を行い、オンデマンドでも視聴できるようにしています。また、演習では、少人数から成るグループに分け、複数の実習室を使用して看護技術習得等の支援を行っています。さらに、病院・施設と密に連携を図り、感染対策を講じた上で、学生が実習先で安全に実習を行えるように支援しています。

医療福祉学科
Department of Medical Welfare

山田 健司教授

授業名「多文化共生と福祉Ⅱ」。この授業では海外と繋がって生活内容や福祉の課題を直接学んでいます。学生は研究室に分散し、海外とライブで受講する方式です。毎回海外から課題が出され、次回に回答し、質疑応答で課題を深めていきます。言語は英語なので四苦八苦していますが、学生はパワーポイントに英文を記して発音を補うなど工夫してコミュニケーションに取り組んでいます。パンデミックは教育に新たな手法をもたらす契機になっています。対面授業をベースにオンラインを組み合わせ世界中とライブで繋がる授業が可能になりました。国内でもゲストは来学の労が省け何人でも参加してくださり、加えて手元の豊富な資料をふんだんに見せてくれます。コロナ前に戻るのではなく経験とともに進化していくのだと感じています。

教育人間科学部 Faculty of Education & Human Sciences

こども学科
Department of Child Science & Education

小湊 真衣講師

「子どもの理解と援助」では北海道の保育所と連携し、子どもの食育教材作りを行いました。食の好き嫌いが出始めてきた子どもたちが食に対する興味を高め、コロナ禍による経験不足も補えるような食育教材とはどのようなものか、少数グループに分かれ試行錯誤しました。コロナ禍のため直接園に出向くことはできませんでしたが、遠隔会議システムを使用してリアルタイムで北海道の保育室と繋がって子どもたちとやりとりをしたり、作成した教材で子どもたちが遊ぶ様子を見させていただいたり、保育士の方から教材に対するアドバイスやフィードバックをいただくなど、コロナ禍によって生じた制約が逆に学びの機会となるよう、各教員が工夫をしながら授業を行なっています。

幼児保育学科
Department of Early Childhood Education & Nursing

小林 咲里亜特任助教

1年次の基礎ゼミでは学生たちが手をカラフルな色に染めながら、自分たちがデザインした鯉のぼりを制作しました。教室内は密にならないように少人数ゼミにて制作活動を実施しました。仲間と協力して完成させた鯉のぼりは、本学に隣接している千住桜木保育園に寄贈させてもらい、園児たちはワフワフと舞う鯉のぼりを指さして「お魚がお空を泳いでいるよ～」と喜んでくれているようでした。制作した学生たちは、園児たちの様子を園庭外から伺いながら嬉しそうに微笑んでいました。保育者としての第一歩を踏み出したように感じました。これらの活動は後期の保育内容授業に繋がる内容となっており、今後の学びを深めていくきっかけになると考えています。

学校教育学科
Department of School Education

［小学校コース］吉村 日出東教授

2021年度の学校教育学科の授業は、コロナ禍でも感染予防に十分留意しながら、対面形式を基本としています。しかし、家庭や本人の事情で、教室に来られない学生もいます。そうした多様な学生に対応するため、「教職概論（中・高）」では、教室にモバイルパソコンを持ち込み、学生の座席の合間に備え付けて、講義をZoomでリアルタイムに映しています。教室によってはWi-Fi環境の良くないところもあり、個人Wi-Fiを使用しているのですが、それでも時々画面がフリーズすることがあります。そんな時に、大いに力を貸してくれるのが、学生の面々です。講義を聴きながら、撮影用モバイルパソコンの画面にも注視して、すぐさまパソコン操作をして、遠隔学生の妨げとなる問題を解決してくれます。
コロナ禍だからこそ、学生も教員も一緒に助け合えていると感じられる一瞬が嬉しく思います。

Go to See Graduates.

卒業生に会いに行く。

理工学部 バイオサイエンス学科※
2007年3月卒業
上伊那農業高等学校（長野県）出身

小松 加苗さん

鴨川シーワールドでシャチのトレーナーを務める。
シャチのパフォーマンスを行うほか、動物の体調管理や後輩トレーナーの育成、シャチの繁殖に関する研究にも積極的に取り組む。在学中は平井研究室に所属し、主に魚類について研究。

※現・生命環境学部 生命科学科

夢の実現に向けた勝負の4年間

シャチのパフォーマンスを初めて見たのは小学生の時でした。トレーナーと共に華麗にパフォーマンスをするシャチの姿を見て、「なんて賢いのだろう、私もシャチと一緒に泳ぎたい！」と強く惹きつけられ、シャチのトレーナーの道を志すようになりました。その時感じたシャチに対する強い思いを持ったまま高校を卒業。生涯シャチに携わるために、動物に関する知識を多方面から身につけたいと考え、鯨類を研究している先生がいる帝京科学大学に進学しました。

「大学生活が勝負、この4年間で夢を叶えなくては」。そんな思いのもと、専攻の生物化学のほか、動物行動学や動物心理学など、他学科の科目も多く履修し、さまざまな授業から動物に関する知識を取り入れました。先生と小笠原諸島でザトウクジラの研究を行ったことや、4年次に他大学の研究室で魚についてより詳しく研究したのも良い思い出です。

鴨川シーワールドには強い憧れを抱いていたものの、当時はまだ実習の受け入れ態勢が整っていなかったので、「実習させてください！」と直談判しました。せっかくの機会を逃さないために、実習中は積極的に自分をアピールしました。その甲斐もあって、無事、鴨川シーワールドに就職、シャチのトレーナーになる夢を実現できました。

行動する、挑戦する。その積み重ねが“今の私”になる

トレーナーはパフォーマンスを行う華やかなイメージとは裏腹に、常に動物達の健康管理を行い、時には出産にも立ち会うなど動物に合わせた生活をしなければならない過酷な仕事です。言葉が通じないため、ちょっとした行動の変化や食欲などを見ながら、体調管理を徹底しています。そんな中でも、出産に立ち会えた瞬間や、パフォーマンスを見ているお客様が喜んでいる姿を見るとやりがいを感じますね。

動物と触れ合う時はもちろん、後輩トレーナーの指導をするうえでも、帝京科学大学で学んだ授業や研究、実習などすべての経験が活きているため、価値のある4年間だったと感じています。大学生活は人生の中で一番自由な時間。興味のあるもの、挑戦したいことに対して素直に行動すれば、そこで得た経験は必ず将来に繋がる。帝京科学大学での4年間は、“今の私”を形作る、その礎を築けたかけがえのない時間でした。

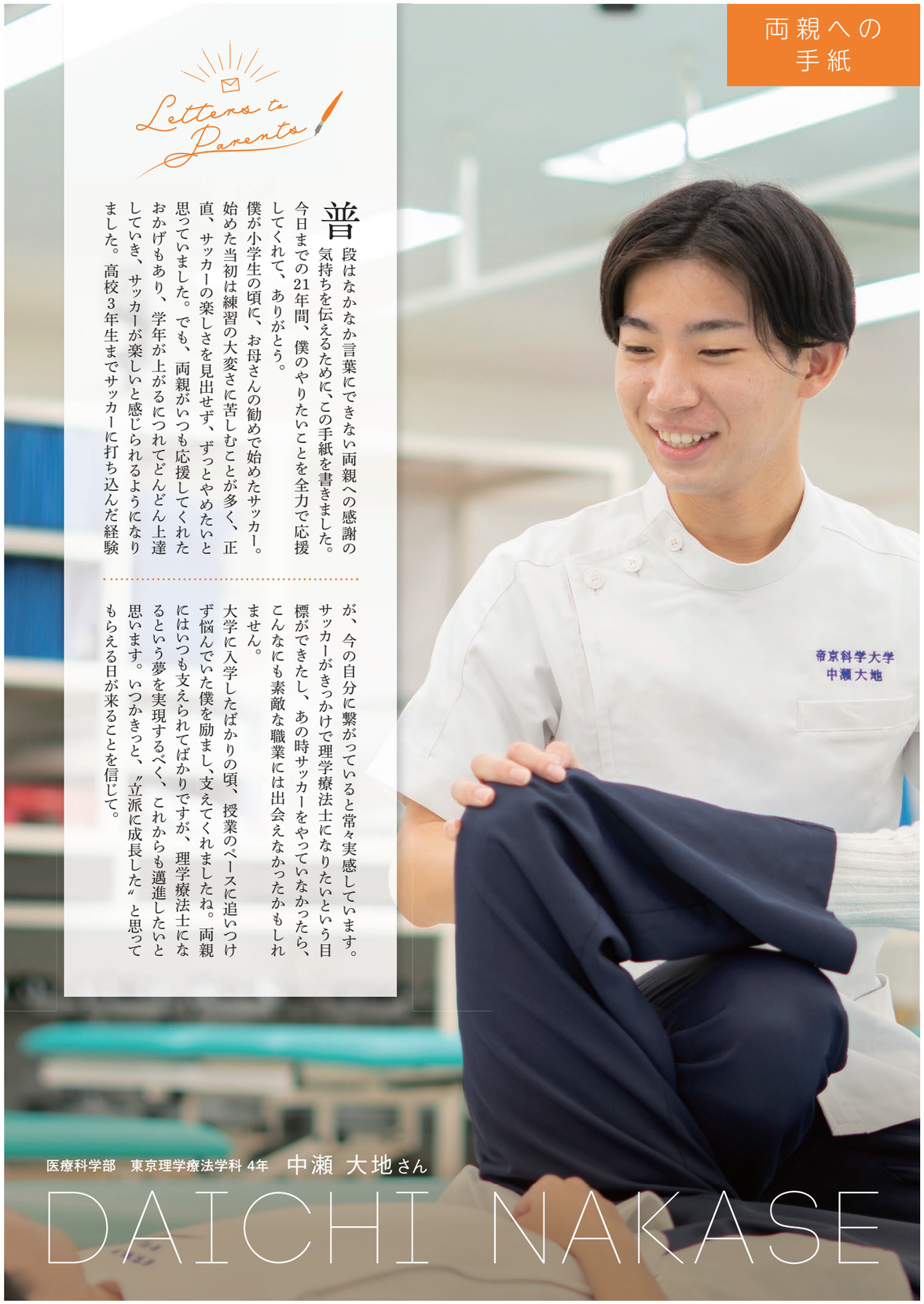
両親への手紙

Letters to Parents

普段はなかなか言葉にできない両親への感謝の気持ちを伝えるために、この手紙を書きました。今日までの21年間、僕のやりたいことを全力で応援してくれて、ありがとう。

僕が小学生の頃に、お母さんの勧めで始めたサッカー。始めた当初は練習の大変さに苦しむことが多く、正直、サッカーの楽しさを見出せず、ずっとやめたいと思っていました。でも、両親がいつも応援してくれたおかげもあり、学年が上がるにつれてどんどん上達していき、サッカーが楽しいと感じられるようになりました。高校3年生までサッカーに打ち込んだ経験が、今の自分に繋がっていると常々実感しています。サッカーがきっかけで理学療法士になりたいという目標ができたし、あの時サッカーをやっていなかったら、こんなにも素敵な職業には出会えなかったかもしれません。

大学に入学したばかりの頃、授業のペースに追いつけず悩んでいた僕を励まし、支えてくれましたね。両親にはいつも支えられてばかりですが、理学療法士になるという夢を実現するべく、これからも邁進したいと思います。いつかきっと、〝立派に成長した〟と思ってもらえる日が来ることを信じて。



医療科学部　東京理学療法学科 4年　**中瀬 大地さん**

DAICHI NAKASE

帝京科学大学 学園祭

University Fes.

※開催についての最新の情報は本学HPをご確認ください。

科大祭（東京西キャンパス）TOKYO WEST CAMPUS

第31回 科大祭実行委員長
杉浦 陽稀

この度、第31回科大祭を開催することが決定いたしました。過去2回は中止となっていたので、私たち実行委員にとっては待ち望んでいた開催となります。しかし、メインで活動しているメンバーは科大祭を経験していないうえに、コロナ禍での開催となるため、成功できるかとても不安があるのも正直なところです。そんな中でも、参加者全員が笑顔で楽しめる科大祭にするため、実行委員一同、精一杯準備を進めています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

桜科祭（千住キャンパス）SENJU CAMPUS

第11回 桜科祭実行委員長
池田 遥南

昨年は活動が自粛となってしまいましたが、今年度は初の試みとなるオンライン開催の方向で進めています。桜科祭の運営は多くの方の協力のもと成り立っています。大変なこともありますが、学生生活において1番の思い出になることは間違いありません。内容としては、サークルの発表や学生企画など、楽しんでもらえるコンテンツを考えています。コロナ禍の学生生活に、少しでも彩りを与えられる催しが出来るよう努めます。桜科祭実行委員への新規入会者も歓迎していますので、興味がありましたらお気軽にご連絡ください！

編集後記

COVID-19感染拡大の先行き不透明な中、本年度前期は対面授業となりましたが、実験・実習や卒業研究などでは講義と異なる感染対策も必要です。本号の「教員の活動報告」でも、各学科・センターの教員が様々な創意工夫をしたコロナ対策授業を実施している様子を紹介しております。学生諸君の安全を第一に考えた上で、教育と研究の充実に努めていますので、ご理解頂くとともに、引き続きのご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

［ニューズレター部会長　渡邉 浩一郎］

いのちをまなぶキャンパス
帝京科学大学
TEIKYO

［発行人］
帝京科学大学 学長　冲永 荘八
〒120-0045
東京都足立区千住桜木2-2-1
TEL：03-6910-1010（代表）

公式HP